自治医科大学附属さいたま医療センター専門研修プログラム

（大都市圏あるいは大学のモデルプログラム）

詳しくは、当科のホームページをご参照下さい

http://jichi-saitama.jp/

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する.

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う.

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する.

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに記されている.

自治医科大学附属さいたま医療センター麻酔科の MISSION
「急性期医療の最前線から、命を守り、未来を変える人材を育成する」
～ここでしかできない挑戦～

【麻酔科（手術部）の特徴】

- **麻酔科は手術部と集中治療部の両者を有し、急性期のプロフェッショナルを育成することを目標に運営しています。**
- 中央手術室 13 室（ハイブリッド手術室 2 室)、日帰り手術室 3 室、産科病棟手術室 1 室を運営
- 豊富な心臓大血管手術(人工心肺手術・OPCAB 350 件/年以上、TAVI・Mitra clip・EVAR/TEVAR 250 件/年以上)、胸部外科手術症例(750 件/年以上)を含め、臓器移植手術を除く全科の症例が経験できます。
- 麻酔科専攻医 1 年次から心臓手術や小児手術、緊急手術を多く経験できます
- 末梢神経ブロック、経食道心エコーの教育にも力を入れています
- 小児麻酔、産科麻酔については、それぞれ、連携施設である小児専門施設（県立小児医療センター、自治医科大学附属とちぎこども医療センター）あるいは、産科麻酔の症例の多い施設（埼玉医科大学総合医療センター）にローテーションすることにより専門性のあるローテーションを行うこともできます。
- 一般外科、心臓血管外科や救急科等、ある程度経験を積んでから当院麻酔科プログラムに応募される人も過去多数。多様なバックグラウンドをもつ仲間が多く、自由な雰囲気のもと研修可能です。
- ICU 研修を通じて術中・術後のシームレスな管理ができるようになります。本人の希望により ICU 研修期間を多くすることももちろん可能です。
- 年２回の長期休暇を取得可能です。家族を大切にできる労働環境を目指しています
- 日々の麻酔管理に並行して、各自が研究テーマを持って臨床研究を行っています。

【麻酔科（集中治療部）の特徴】

- 年間入室症例 2000 件以上
- 日本集中治療医学会症例レジストリ(JIPAD)参加施設中病床数 1 位、登録重症症例数 3 年連続 1 位
- 4D-CT 等人工呼吸器関連の臨床研究では世界のトップランナー
- ICU/CCU22 床，EICU8 床の 30 床の “closed ICU” で，日々病態の把握、適切なプレゼンテーションができることを目指すことを通じて、集中治療領域の standard/ advanced な治療方針を体得することが出来ます

- 年間 400 件以上の開心術後の術後管理、その他の大手術後患者，救命救急センターからの重症症例，造血幹細胞移植後の重症内科疾患など多彩な症例を通じて、循環・呼吸管理の実地に学ぶことが出来ます。
- 多数の重症患者の『シャワー』を浴びることで教科書・INTENSIVIST を読むだけでは得られない経験を積むことが出来ます。
- VV-ECMO, VA-ECMO 管理症例も豊富です。COVID-19 VV-ECMO/VAV-ECMO 導入件数延べ 37 件（最大同時 8 件：外傷・他の呼吸器疾患、開心術後なども含む）
- ECMO car の寄贈を受け、現在重症呼吸不全・循環不全患者の搬送プロジェクトが始動しています。
- Electrical Impedance Tomography、8 種類の人工呼吸器、間接熱量計、各種循環動態モニタ（肺動脈カテーテル、FloTrac、等）、持続脳波モニタ、ROTEM/TEG（血液粘弾性テスト）など多彩な診療補助機器を用いて、その特徴・限界を理解しながら生理学的・客観的に評価し、最終的にこれらの機械がなくても生理学的な変化を予想できる臨床感を養成することを目指しています。
- ECMO 挿入、気管切開、CV、肺動脈カテーテル、胸・腹腔ドレーン、TEE/TTE、POCUS、BAL などの代表的な集中治療手技を網羅できます。
- 自院のデータから、AI による予後予測システムを臨床実装しており、最先端の ICU 治療を体験できます。
- RRS を ICU 部門が担当しており，院内患者の医療の質の向上のため，日々尽力しています
- 麻酔科・集中治療部として運営しているため定期的に麻酔や集中治療のローテーションも可能。麻酔を専門としている方は麻酔のキャリアロスになりません。救急科は独立しておりますが、良好な関係にありローテーション可能なため、救急医としてのキャリアを維持しながらの ICU 専従も可能です。その他の院内他科と併任の前例もあります（腎臓内科、総合診療科など）
- 過去の研修者や現在のスタッフは麻酔科、救急科、循環器内科、総合診療科、呼吸器内科、血液内科、神経内科、腎臓内科、外科、感染症科、小児科など多様です。
- 学内社会人大学院生、国内・国外大学院の MPH/MSc コース学生・修了者もおります（帝京大学, Johns-Hopkins University, University of London (London School of Hygiene & Tropical Medicine), Mahidol-Oxford)
- 米国内科専門医、厚生労働省出向経験者など、多彩なキャリアプランがあります。
- ICU が 2 ユニットあるため、当直（夜勤）は二人体制で行われており、初めての方でも一人当直にはなりません。
- Tele-ICU（遠隔 ICU サポートシステム）により、夜間・休日も患者モニタリングカメラや電子カルテを通じて上級医と相談できます

- オン・オフがはっきりしており帰宅したら呼ばれることはありません。家族を大切にできる労働環境を目指しています。
- 実績のある臨床研究医からの論文指導も豊富に受けられます。ビッグデータ解析、AI 関連研究、4DCT など人工呼吸器関連研究、術中の血行動態研究など、手術部・集中治療部から年間 30 本以上の論文掲載実績があります。

3. 専門研修プログラムの運営方針

機構のガイドラインに則り、基幹施設での研修は、研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち少なくとも半年以上とする。

研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する。このため、当院では小児手術の症例が少ないため、埼玉県立小児医療センターあるいは自治医医科大学附属とちぎこども医療センターをローテーションにより適宜補充する。

すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、集中治療を中心に学びたい者へのローテーションも考慮する.

地域医療の維持のため，最低でも３ヶ月以上は地域医療支援病院で研修を行うことを目標としている。

週間予定表（例）

自治さいたま医療センター麻酔ローテーションの場合（例）

月	火	水	木	金	土	日
手術室	手術室	外勤	手術室	手術室	休み	休み

研修実施計画（参考）

	A	B	C
	標準	**標準**	**集中治療**

初年度 前期	連携施設 （麻酔）	自治さいたま （麻酔）	自治さいたま （麻酔）
初年度 後期	自治さいたま （麻酔）	連携施設 （麻酔）	自治さいたま （麻酔）
２年度 前期	連携施設 （麻酔）	自治さいたま （麻酔）	自治さいたま （集中治療）
２年度 後期	連携施設 （麻酔）	自治さいたま （麻酔）	自治さいたま （集中治療）
３年度 前期	自治さいたま （集中治療）	自治さいたま （集中治療）	小児医療 センター （小児麻酔）
３年度 後期	小児医療 センター （小児麻酔）	連携施設 （麻酔）	自治さいたま （集中治療）
４年度 前期	自治さいたま （麻酔）	小児医療 センター （小児麻酔））	連携施設 （麻酔）
４年度 後期	自治さいたま （麻酔）	自治さいたま （ペイン・ 麻酔）	自治さいたま （麻酔）

4. 研修施設の指導体制

①　専門研修基幹施設

●　自治医科大学附属さいたま医療センター

認定病院番号：961
研修プログラム統括責任者：飯塚　悠祐

専門研修指導医：

飯塚　悠祐	（一般麻酔，集中治療）
大塚　祐史	（心臓麻酔、救急医療）
松野　由以	（一般麻酔、ペインクリニック）
佐藤　和香子	（一般麻酔）
瀧澤　裕	（緩和ケア、ペインクリニック）
宮澤　恵果	（小児麻酔、心臓麻酔）
深野　賢太朗	（一般麻酔、集中治療、救急医療）
諏訪　晧士	（一般麻酔、心臓麻酔）
斉藤　玲那	（一般麻酔）

専門医：

大木　紗弥香	（心臓麻酔）
澤田　郁美	（一般麻酔、救急医療、国際応援）
西山　聖也	（一般麻酔、集中治療）
永井　佳裕	（一般麻酔、集中治療）

特徴：
手術室では、臓器移植を除く全科の症例を扱っています。特に心臓大血管手術、呼吸器外科手術を数多く経験出来ます。また、重篤な併存症を有する患者の麻酔管理を行う機会も豊富です。
麻酔科・集中治療部として運営しているため、30 床を有する Closed ICU にて、幅広い疾患の患者管理を経験することも可能です。ICU では特に機械的補助循環（ECMO、IMPELLA、IABP、CRRT など）の管理、重症呼吸不全の呼吸管理を、数多く経験出来ます。
麻酔科管理症例数　6297 例　（2025 年度）

詳しくは、当科のホームページをご参照下さい

http://jichi-saitama.jp/

②　専門研修連携施設

●　横須賀市立総合医療センター（Yokosuka General Medical Center: YGMC）

認定病院番号：494
研修実施責任者：砂川　浩
専門研修指導医：

砂川　浩（手術麻酔）
篠田　貴秀（手術麻酔）
野口　さくら（手術麻酔）
大濵　信之亮（手術麻酔）

特徴：当院は、450 床、手術室 10 室であり、三浦半島の急性期医療を担う最後の砦と自負して診療を行っております。2025 年度は、麻酔科管理症例 3054 件となり、一般的な手術麻酔に関しては一通りすべて経験できる環境にあります。

●　昭和大学病院

認定病院番号：33
研修実施責任者：大江　克憲研修実施責任者：大江　克憲
専門研修指導医：

大江　克憲（心臓麻酔、小児心臓麻酔、集中治療）
加藤　里絵（産科麻酔、手術麻酔）
小谷　透（集中治療）
米良　仁志（ペインクリニック）
尾頭　希代子（呼吸管理、心臓麻酔、集中治療）
細川　幸希（産科麻酔、手術麻酔）
小林　玲音（ペインクリニック、手術麻酔）
石田　裕介（心臓麻酔、手術麻酔、集中治療）
五十嵐　友美（集中治療）
原　詠子（ペインクリニック、手術麻酔）
泰地　沙季（手術麻酔）

佐々木　友美（手術麻酔）
五反田　倫子（産科麻酔、手術麻酔）
落合　弦（産科麻酔、手術麻酔）
飯島　香子（産科麻酔、手術麻酔）
髙橋　有里恵（小児心臓麻酔、手術麻酔）
羽二生　毬子（手術麻酔）

特徴：手術症例が豊富で専門医取得に必要な特殊症例が当施設で研修できます。食道手術、肝臓手術、呼吸器外科手術などの麻酔管理を十分に経験でき、心臓血管外科も成人と小児の両方を数多く行っています。手術麻酔に加えてペインクリニック、無痛分娩（産科麻酔）、集中治療、緩和医療などのサブスペシャルティの研修も可能です。多職種による術前外来も開設しており、専門医が習得すべき周術期管理をバランス良く学べます。

●　北里大学メディカルセンター

認定病院番号：1362
研修プログラム統括責任者：竹浪　民江
専門研修指導医：
竹浪　民江（麻酔）
長嶋　小百合（麻酔）
結城　由香子（麻酔）
専門医：
関根　沙由美（麻酔）
島野 拳（麻酔）

特徴：埼玉県央エリアの地域中核病院。
麻酔科管理症例数 1933 症例

●　東京ベイ・浦安市川医療センター

認定病院番号：1612
研修実施責任者：小野寺　英貴
専門研修指導医：
小野寺　英貴（麻酔）
深津　健（麻酔）
日下部　良臣（麻酔）
石橋　智子（麻酔）

特徴：高齢者医療・救急医療・小児医療・周産期医療を診療の重点とし、地域医療に根差した救急拠点病院。

● 日本赤十字社　さいたま赤十字病院

認定病院番号: 588
研修プログラム統括責任者：冨岡　俊也
研修実施責任者: 冨岡俊也
専門研修指導医:

冨岡俊也(臨床麻酔、医学教育)
中井川泰(臨床麻酔)
山田将紀(臨床麻酔)
松岡　拓(臨床麻酔)
杉部清佳(臨床麻酔/緩和ケア)
田口雅基(臨床麻酔)
神山治郎(救急/集中治療)
堤香苗（臨床麻酔）

特徴:さいたま赤十字病院は政令指定都市の３次救急指定病院であり，救急搬送数が約8000 人 /年，救急救命センター患者受診数が約１万人/年以上と非常に多く，多発外傷や高度熱傷等の重症患者の緊急手術も多い特徴を持つ。そのような臨床現場で十分な情報の無い患者に臨機応変に対応し，適切な周術期管理を行う能力を身に付ける事を目標とする.総合周産期母子医療センター，高度救命救急センター，災害拠点病院であるさいたま赤十字病院は，隣接した県立小児医療センターとも周産期医療、移植医療をはじめ協力&協働関係にあり，多彩な症例を経験することが可能である.

● 自治医科大学附属病院

認定病院番号：105
研修プログラム統括責任者：五十嵐孝
専門研修指導医：

五十嵐孝（ペインクリニック，産科麻酔）
讃井將満（集中治療）
佐藤正章（蘇生学，医学教育）
堀田訓久（ペインクリニック，区域麻酔）
末盛智彦（小児集中治療，心臓麻酔）
永野達也（小児麻酔，小児集中治療）
関厚一郎（心臓麻酔，集中治療）

篠原貴子（小児麻酔，ペインクリニック）
原村陽子（小児麻酔，小児集中治療）
吉永晃一（心臓麻酔，集中治療）
山本令子（手術麻酔）
佐多奈歩（集中治療）
原鉄人（手術麻酔，集中治療）
山田希生（手術麻酔，移植手術麻酔）

特徴：当院は全国初の大学病院併設型の子ども医療センターを有し，周産期母子センター，がん拠点病院といった多数の機能を有している．また救命救急センターを経由した緊急手術が多いのが特徴である．専攻医はあらゆる診療科の common disease に対する手術から高難易度術式，希少疾患を背景とした患者の麻酔などを幅広く経験可能である．また 2025 年度より移植医療支援室型拠点施設に指定され、肝・腎・膵臓移植を主軸に北関東の臓器移植の拠点となっている．術後疼痛管理チームの運用やペインクリニック，緩和ケア，集中治療など様々なサブスペシャリティの指導医が揃っており，専攻医一人ひとりのニーズに即した研修プログラムを提供している．
2025 年度　麻酔科管理症例数　7,967 症例

●　埼玉医科大学総合医療センター

認定病院番号：390
研修実施責任者：鈴木 俊成
専門研修指導医：

小山 薫 （麻酔，集中治療）
照井 克生 （麻酔，産科麻酔）
小幡 英章 （麻酔，ペインクリニック）
鈴木 俊成 （麻酔，区域麻酔）
田村 和美 （麻酔，産科麻酔）
佐々木 麻美子 （麻酔，小児麻酔）
山家 陽児 （麻酔，ペインクリニック）
加藤 崇央 （麻酔，集中治療）
田澤 和雅 （麻酔）
加藤 梓 （麻酔，産科麻酔）
北岡 良樹 （麻酔，心臓麻酔）
佐々木 華子 （麻酔）
金子 恒樹 （麻酔，産科麻酔）

吉田 由惟 （麻酔，産科麻酔）
伊野田 絢子（麻酔）
金子 友美（麻酔）
黒川 右基 （麻酔、集中治療）
坂本 尚子 （麻酔、集中治療）
岡田 啓 （麻酔、集中治療）
岩山 香坂 （麻酔、産科麻酔）
原口 崇 （麻酔、産科麻酔）

専門医：

黒木 将貴 （麻酔、心臓麻酔）
大久保 訓秀 （麻酔、集中治療）
野口 翔平 （麻酔、産科麻酔）
松浦 千穂 （麻酔、産科麻酔）
篠崎 奈可 （麻酔）
永井 隆文 （麻酔）
高山 瑠衣 （麻酔）
木村 亜紀子（麻酔）
横谷 円（麻酔）
松本 木綿子（麻酔）
小島 拓也 （麻酔）
吉田 賢一 （麻酔）
境田 文威 （麻酔）

特徴：県内唯一の総合周産期母子医療センターがあり、高度救急救命センターにはドクターヘリが設置されている.
急性期医療に特化した麻酔管理のみならず，独立診療体制の産科麻酔，ペイン，集中治療のローテーションが可能で，手術室麻酔のみならずオールラウンドな麻酔科医を目指すことができる.

● 公益社団法人　地域医療振興協会　練馬光が丘病院

認定病院番号：1586
研修プログラム統括責任者：岡田　修（心臓麻酔・臨床麻酔）
専門研修指導医：

和井内　賛（臨床麻酔）
小西　るり子（臨床麻酔・ペインクリニック）

永井　美玲（心臓麻酔・臨床麻酔）
甲斐　真紀子（臨床麻酔）
春日　武史（集中治療・心臓麻酔）

特徴：2022 年 10 月に新病院として移転リニューアルしました。病床数は 457 床で、ICU14 床、HCU16 床、手術室はゆとりあるスペースで 8 室あります。ハイブリッド手術、ダヴィンチ手術、O アーム脊椎手術にも対応しており、幅広い症例を学ぶ事ができます。

● 埼玉県立小児医療センター

認定病院番号：399
研修実施責任者：蔵谷　紀文
専門研修指導医：
蔵谷　紀文　（麻酔・小児麻酔）
濱屋　和泉　（麻酔・小児心臓麻酔）
古賀　洋安　（麻酔・小児麻酔）
伊佐田　哲朗　（麻酔・小児麻酔）
小嶋　大樹　（麻酔・小児麻酔）
大橋　智　（麻酔・小児麻酔）
駒崎　真矢　（麻酔・小児麻酔）
高田　美沙　（麻酔・小児麻酔）
坂口　雄一　（麻酔・小児麻酔）
藤本　由貴　（麻酔・小児麻酔）
鴻池　利枝　（麻酔・小児麻酔）
専門医：
影山　翔一　（麻酔・小児麻酔）

特徴：研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能です(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。さいたま新都心駅と北与野駅からペデストリアンデッキで直接アクセス可能です。
麻酔科管理症例　3908例（2025年度）

● 静岡市立静岡病院

認定病院番号：487
研修実施責任者：玉里　順子
専門研修指導医：
玉里　順子（麻酔）
佐久間　潮里（麻酔）
寺田　尚弘（麻酔）
美根　智子（麻酔）
津久井　亮太（麻酔）
星野　駿（麻酔）

特徴：地域の救急を担う中核病院・ハートセンターとして緊急手術も多い病院です。特に心臓血管外科症例、循環器内科症例、循環器疾患を合併した非心臓手術の重症症例、呼吸器外科症例が多く、充実した指導体制の下で循環/呼吸管理の基本を徹底的に学べます。各麻酔の基本のみならず心エコーや体表のエコー神経ブロック技術等に関しては独自の教育プログラムを有しており、シミュレーションとベッドサイドの両方のトレーニングに加えて定期的な講義や試験があるため、短期間で専門的な知識と手技を確実に獲得することができます。
2025 年度麻酔科管理全症例数：3617

● 三井記念病院

認定病院番号：68
研修実施責任者：横塚　基
専門研修指導医：
横塚基　（麻酔，心臓麻酔）
大野長良　（麻酔，心臓麻酔）
竹内純平　（麻酔，心臓麻酔）
大槻達道　（麻酔，心臓麻酔）
佐藤瑞穂　（麻酔，蘇生）
今井恵理哉（麻酔，心臓麻酔，集中治療）
田中真佑美（麻酔）
松永渉　（麻酔，心臓麻酔）
山本麻里　（麻酔）
滑川元希　（麻酔，心臓麻酔，集中治療）
専門医：

小平亜美　（麻酔，心臓麻酔）
仲西里奈子（麻酔）
小嶋太郎　（麻酔）

特徴：特徴：東京都，区中央部医療圏の高度急性期機能・急性期機能を担うことに特化した急性期病院．CCU ネットワークや急性大動脈ネットワークを通じて，重篤な緊急患者の受け入れを積極的に行っている．また，地域医療支援病院・災害拠点病院として地域医療の中核を担っている．成人の心臓麻酔・透析患者・重症患者を中心に幅広い症例を経験できる．
麻酔科管理症例数　4981 症例（2025 年度）

● 聖路加国際病院

認定病院番号：249
研修実施責任者：阿部　世紀
日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格
専門研修指導医:

阿部　世紀　（麻酔、小児麻酔）
藤田　信子　（麻酔、心臓麻酔、産科麻酔、ペインクリニック）
佐久間　麻里　（麻酔、救急）
林　怜史　（麻酔、心臓麻酔、ICU）
篠田　麻衣子　（麻酔、区域麻酔）
早坂　知子　（麻酔、区域麻酔）
宮坂　清之　（麻酔、小児麻酔、シミュレーション教育）
小山　杏奈　（麻酔、ペインクリニック、産科麻酔）
城本　菜那　（麻酔、心臓麻酔）
大橋　雄大　（麻酔、産科麻酔）
井上　真由子　（麻酔、心臓麻酔）
坂野　彩　（麻酔、心臓麻酔）
吉武　朱里　（麻酔、産科麻酔）
蓮下　雄大　（麻酔、ペインクリニック）
山上　郁雄　（麻酔、心臓麻酔）
ハシチウォヴィッチ トマシュ　（麻酔、APS）
鈴木亜沙美　（麻酔、産科麻酔）

特徴：当院の手術室は 15 室あり、心臓外科、小児外科、胸部外科、腹部外科、脳神経外科、無痛分娩、また先端医療（TAVI、Mitralclip、Da Vinci 手術（泌尿器、呼吸器外科、婦人科、外科、心臓外科）など）も含めた、幅広い症例が経験できる。
挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる。

● 公益財団法人　榊原記念財団　附属　榊原記念病院

認定病院番号　第 1441 番
研修実施責任者：清水　淳（麻酔一般、心臓麻酔）
専門研修指導医：
　　一瀬　麻紀　（麻酔一般、救急医療）
　　古市　結富子　（麻酔一般、心臓麻酔、集中治療）

特徴：急性期医療を中心とした，あらゆる年齢層を対象とした循環器疾患の専門施設である．小児先天性心疾患を含む心臓血管手術全般および最先端のカテーテル治療の麻酔管理、術後管理を中心とした集中治療管理を豊富に経験することができる．また他科・他職種間の垣根が低く，カンファランスや実地臨床を通じて幅広い知識を得ることができる．地域医療支援病院である．

● 埼玉県立がんセンター

認定病院番号：１３７号
研修プログラム統括責任者：　茂木康一
専門研修指導医
　茂木康一　　（麻酔）
　澤田圭介　　（麻酔、臨床薬理）
　椿久美子　　（麻酔、区域麻酔）
　坂本美岬　　（麻酔、区域麻酔）
　本吉谷真理子　（麻酔）
専門医
　四方田了平　　（麻酔）

笠原彩　　（麻酔）

特徴：都道府県がん診療連携拠点病院として、埼玉県のがん診療をリードする病院です。１２室ある手術室では、全身臓器のがん手術を行っています。その中でも、胸部外科手術、頭頚部外科手術、乳腺外科手術を多く経験できます。また、当院は、サルコーマセンターを有しているため、整形外科手術も多く経験できます。
２０２５年麻酔科管理症例数３５８５例

● さいたま市民医療センター

認定病院番号：1807
研修実施責任者：齋藤　裕一
専門研修指導医：齋藤　裕一（麻酔）

特徴：　地域の急性期病院。

● 岩手県立胆沢病院

認定病院番号：263
研修実施責任者：木村　丘
専門研修指導医：木村丘(麻酔、ペインクリニック)
松井秀明(麻酔、ペインクリニック)
加藤幸恵(麻酔、ペインクリニック)
青山泰樹(麻酔、区域麻酔、心臓血管麻酔、ペインクリニック)
青山有佳(麻酔、区域麻酔)

特徴：岩手県内陸南部の要衝医療施設の一つ。救急医療、がん医療を重視し、心臓手術はないものの血管外科緊急も広い医療圏から受け入れる。脊柱管麻酔、末梢神経ブロックを駆使し、全症例翌日朝回診を行ってフィードバックを得ている。APS 介入により術後硬膜外鎮痛、持続末梢神経ブロックの需要が高まっている。難治性疼痛に対する脊髄刺激療法や、がん医療に関連した内臓痛ブロックなどペインクリニックのニーズも高い。

専攻医の採用と問い合わせ先

①　採用方法
専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2024年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する.

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，自治医科大学附属さいたま医療センター麻酔科専門研修プログラムwebsite，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

自治医科大学附属さいたま医療センター　麻酔科

埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847
TEL 048-647-2111
E-mail：h-okamo@jichi.ac.jp

詳しくは、当科のホームページをご参照下さい

http://jichi-saitama.jp/

1．麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する.

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる.

2. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する.

3. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する.

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる.

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる.

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる.また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する.

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

4. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

5. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

6. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する.

7. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う.
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる.
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して２年迄休止を認めることとする. 休止期間は研修期間に含まれない. 研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす.
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない. ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし２年以上の休止を認める.

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする.
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる.

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる. その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある. 麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める.

8. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての横須賀市立うわまち病院，北里大学メディカルセンターなど幅広い連携施設が入っている. 医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小

規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する.

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．